

青森県経済統計報告

平成 25 年 2 月 4 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成 25 年 1 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,347,649 人（対前月 966 人減少）
自然動態	807 人減少（出生者数 742 人、死亡者数 1,549 人）
社会動態	159 人減少（転入者数 959 人、転出者数 1,118 人）

2 本県の経済動向（平成 24 年 11 月・12 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、生産面が弱含んでいるほか、堅調な消費面においても一部で弱い動きがみられる。東日本大震災の影響は総じて薄まりつつある。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の 平成 24 年 11 月の青森県鉱工業生産指数(平成 17 年=100)は、季節調整 … 2
生産動向 済指数が 98.9 で、前月比 4.0%の上昇となり、3 ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は 106.0 で、前年同月比 9.6%の低下となり、3 ヶ月連続で前年同月を下回った。
- (2-2) 雇用情勢 平成 24 年 11 月の定期給与は 220,255 円で前年同月比 0.2%減となった。 … 3
総実労働時間は 159.4 時間で前年同月比 0.9%増、所定外労働時間は 9.4 時間で前年同月比 3.5%減となった。
平成 24 年 12 月の有効求人倍率（季節調整値）は 0.60 倍で、前月を 0.02 ポイント上回った。
- (2-3) 物 価 平成 24 年 12 月の青森市消費者物価指数（平成 22 年=100）は、総合指数 … 4
が 98.7 となり、前月と同水準、前年同月比 0.8%の下落となった。
- (2-4) 個人消費 ・平成 24 年 11 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 144 億 1,300 万 … 5
円で前年同月比 0.2%増となり、9 ヶ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは 1.6%減となり、2 ヶ月連続で前年同月を下回った。
・平成 24 年 12 月の観光入込客数は、主な観光施設が前年同月比 13.6%減となり、2 ヶ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は 0.1%減となり、5 ヶ月ぶりに前年同月を下回った。
・平成 24 年 12 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 2,403 台で、前年同月比 0.7%増となり、2 ヶ月連続で前年同月を上回った
- (2-5) 住宅建設 平成 24 年 12 月の新設住宅着工戸数は 461 戸で、前年同月比 25.6%増と … 6
なり、2 ヶ月ぶりに前年同月を上回った。
- (2-6) 電 力 平成 24 年 12 月の大口電力使用量は 2 億 4469 万 kWh で、前年同月比 16.7% … 6
使用量 増となり、11 ヶ月連続で前年同月を上回った。

（3）景気動向指数 C I（平成 24 年 11 月分）…………… 7

先行指数	104.3（前月を 2.2 ポイント下回り、4 か月連続で下降した）
一致指数	104.9（前月を 1.3 ポイント下回り、3 か月連続で下降した）
遅行指数	91.4（前月を 2.7 ポイント下回り、4 か月連続で下降した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 25 年 1 月期）…………… 8

- 3 ヶ月前と比べた景気の現状判断 D I ……48.8（前期比 4.8 ポイント増、2 期連続で 50 を下回る）
3 ヶ月後の景気の先行き判断 D I ……58.0（前期比 10.7 ポイント増、2 期ぶりに 50 を上回る）

1 青森県の推計人口（平成25年1月1日現在）

【概況】

平成25年1月1日現在の本県推計人口は、1,347,649人で、前月に比べ966人の減少となった。

○自然動態

出生者数が742人、死亡者数が1,549人で、807人の減少となった。

○社会動態

転入者数が959人、転出者数が1,118人で、159人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数			社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女			出生者数	死亡者数	自然増減数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
24.1.1	1,361,053	639,658	721,395	-0.057%	-782	-726	732	1,458	-56	1,035	1,091
24.2.1	1,360,012	639,170	720,842	-0.076%	-1,041	-805	816	1,621	-236	963	1,199
24.3.1	1,358,799	638,575	720,224	-0.089%	-1,213	-893	709	1,602	-320	1,012	1,332
24.4.1	1,353,174	635,460	717,714	-0.414%	-5,625	-756	742	1,498	-4,869	3,822	8,691
24.5.1	1,352,715	635,268	717,447	-0.034%	-459	-661	716	1,377	202	3,907	3,705
24.6.1	1,352,007	634,904	717,103	-0.052%	-708	-674	832	1,506	-34	1,488	1,522
24.7.1	1,351,462	634,663	716,799	-0.040%	-545	-579	692	1,271	34	1,270	1,236
24.8.1	1,350,937	634,474	716,463	-0.039%	-525	-479	827	1,306	-46	1,829	1,875
24.9.1	1,350,523	634,348	716,175	-0.031%	-414	-548	823	1,371	134	1,931	1,797
24.10.1	1,349,968	634,195	715,773	-0.041%	-555	-445	736	1,181	-110	1,382	1,492
24.11.1	1,349,294	633,890	715,404	-0.050%	-674	-756	814	1,570	82	1,606	1,524
24.12.1	1,348,615	633,608	715,007	-0.050%	-679	-690	750	1,440	11	1,158	1,147
25.1.1	1,347,649	633,188	714,461	-0.072%	-966	-807	742	1,549	-159	959	1,118

12月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		平14.12	平15.12	16.12	17.12	18.12	19.12	20.12	21.12	22.12	23.12	24.12
自然動態	出生者数	898	896	879	790	786	769	813	781	742	732	742
	死亡者数	1,162	1,144	1,222	1,208	1,289	1,303	1,349	1,318	1,317	1,458	1,549
	自然増減数	-264	-248	-343	-418	-503	-534	-536	-537	-575	-726	-807
社会動態	県外からの転入者数	1,370	1,364	1,275	1,184	1,212	1,162	1,265	1,163	1,151	1,035	959
	県外への転出者数	1,612	1,531	1,419	1,484	1,349	1,412	1,423	1,192	1,163	1,091	1,118
	社会増減数	-242	-167	-144	-300	-137	-250	-158	-29	-12	-56	-159
増減数計		-506	-415	-487	-718	-640	-784	-694	-566	-587	-782	-966

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成22年11月以降の人口は平成22年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

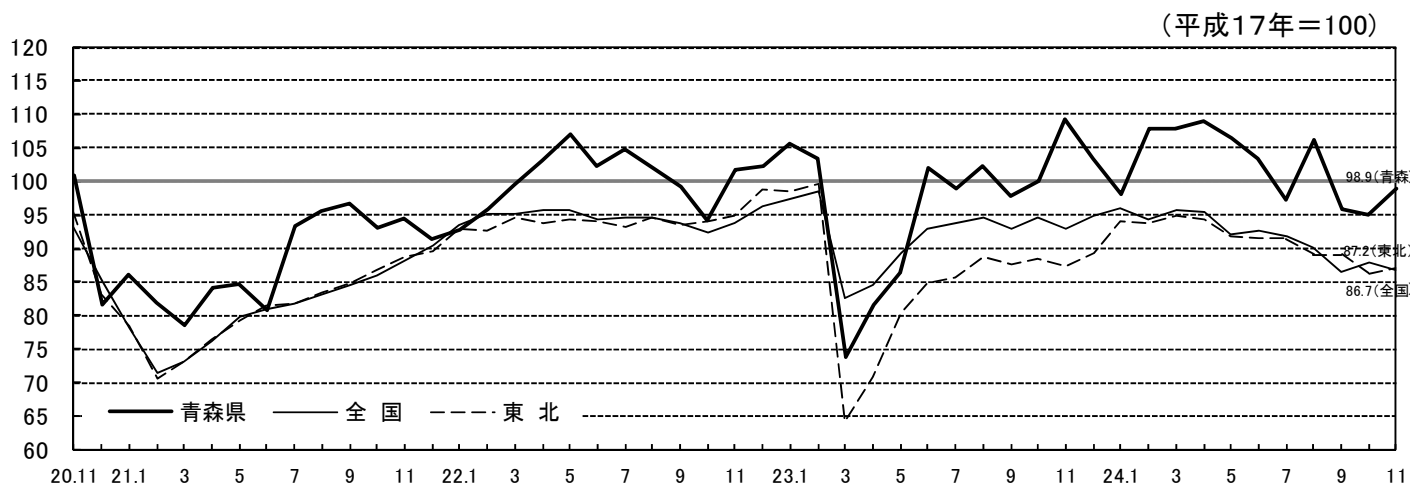
(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

平成24年11月の青森県鉱工業生産指数(平成17年=100)は、季節調整済指数が98.9で、前月比4.0%の上昇となり、3ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は106.0で、前年同月比9.6%の低下となり、3ヶ月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、食料品工業、電子部品・デバイス工業、化学工業などが上昇に寄与した一方、一般機械工業、電気機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業などが低下し、鉱工業全体では4.0%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

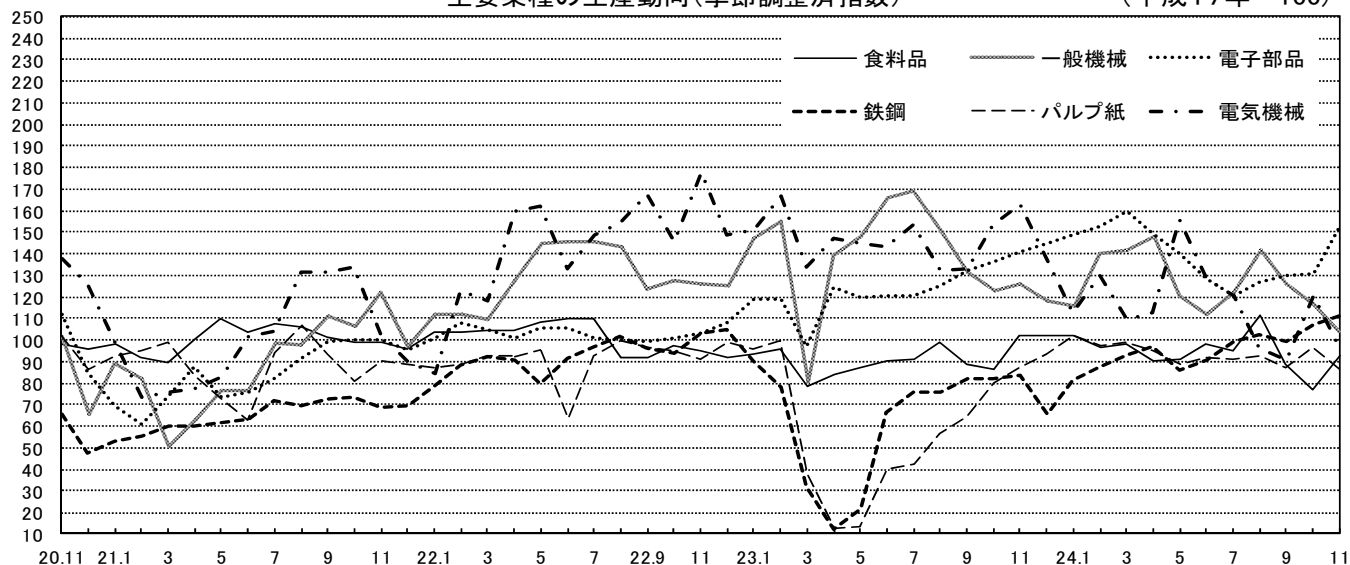


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 4.0%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
食料品工業	20.2	70.5	一般機械工業	-11.2	-33.3
電子部品・デバイス工業	16.1	47.3	電気機械工業	-19.7	-26.5
化学工業	102.5	45.0	パルプ・紙・紙加工品工業	-11.0	-17.5
非鉄金属工業	92.9	21.4	金属製品工業	-11.9	-11.9
鉄鋼業	3.3	7.1	輸送機械工業	-59.0	-4.7

主要業種の生産動向(季節調整済指数)

(平成17年=100)



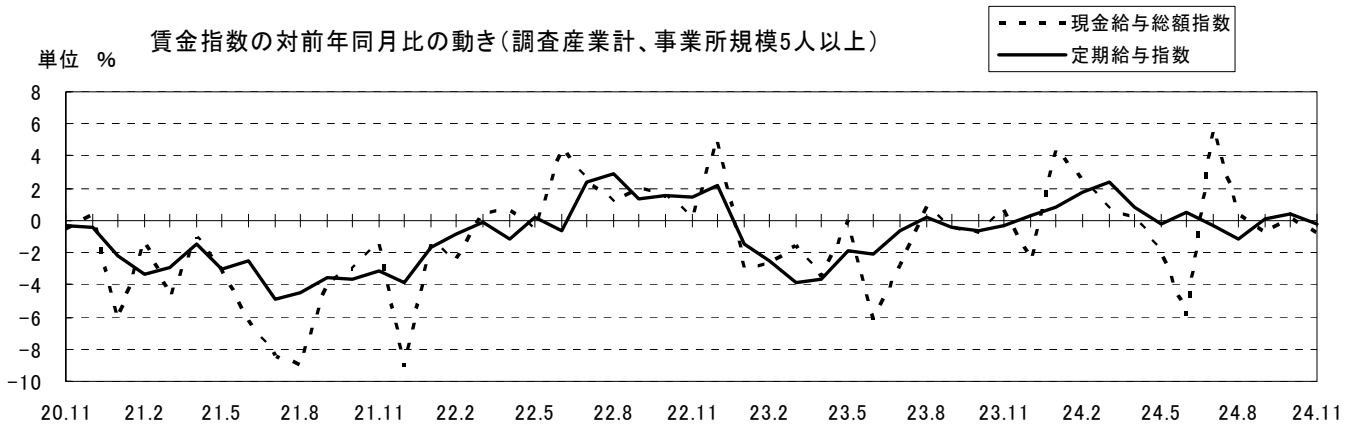
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成24年11月の定期給与は220,255円で定期給与指数(平成22年=100)では100.1となり、前年同月比0.2%減(現金給与総額224,023円、現金給与総額指数86.8、前年同月比0.8%減)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は84.2となった。

総実労働時間は159.4時間で、総実労働時間指数は103.1となり、前年同月比0.9%増となった。このうち、所定外労働時間は9.4時間で、所定外労働時間指数は103.3となり、前年同月比3.5%減となった。

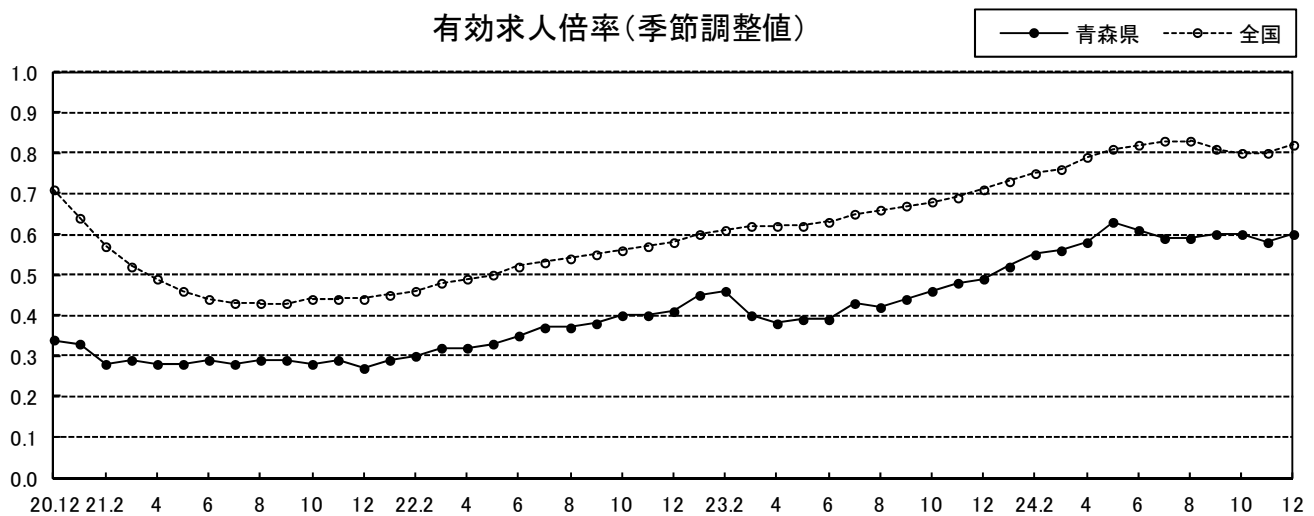
平成24年12月の有効求人倍率(季節調整値)は0.60倍で、前月を0.02ポイント上回った。



賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H22=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	224,023 円	275,250 円	86.8	86.9	-0.8 %	-0.8 %
定期給与	220,255 円	261,547 円	100.1	99.5	-0.2 %	-0.3 %
特別給与	3,768 円	13,703 円	—	—	—	-9.2 %
総実労働時間	159.4 時間	151.4 時間	103.1	103.3	0.9 %	1.6 %
所定内労働時間	150.0 時間	140.9 時間	103.1	103.3	1.4 %	1.8 %
所定外労働時間	9.4 時間	10.5 時間	103.3	102.9	-3.5 %	-2.2 %

- (注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。
 2.前年同月比は指数によって算出している。
 3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。
 資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料:青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成24年12月の青森市消費者物価指数（平成22年=100）は、総合指数が98.7となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.8%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は98.9となり、前月と比べ0.2%の下落、前年同月と比べ0.8%の下落となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は97.5となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ0.9%の下落となった。

総合指数が前月と同水準となった内訳を寄与度でみると、食料、交通・通信などの上昇、家具・家事用品、住居などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.8%の下落となった内訳を寄与度でみると、住居、食料などの下落が要因となっている。

図1 総合指数の動き

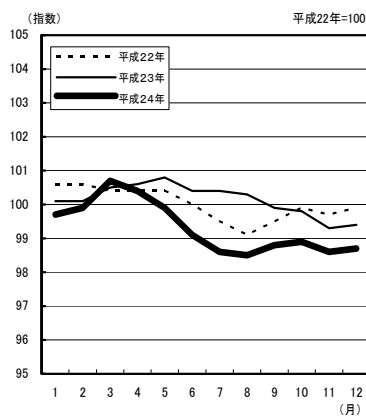


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

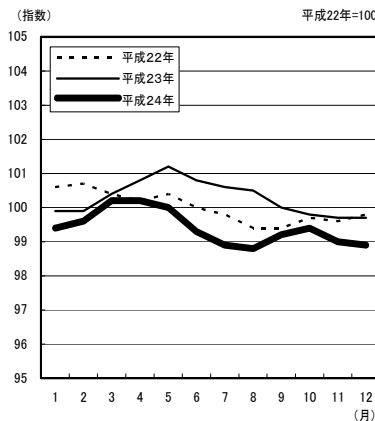
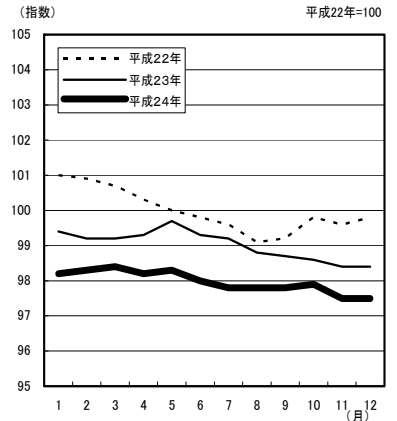


図3 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成22年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被及履	服び物	保医	健康	交通・通信	教育	教娯	養楽	諸雑費
当月指数	98.7	98.9	98.8	97.5	96.9	93.8	98.0	107.7	91.1	101.0	98.0	101.5	96.7	91.3	103.9			
前月比(%)	0.0	▲0.2	0.0	▲0.1	0.2	4.7	▲0.1	▲0.1	▲1.1	0.3	▲0.3	0.2	0.0	0.0	0.0			
寄与度	—	▲0.16	0.04	▲0.06	0.05	0.18	▲0.02	▲0.01	▲0.04	0.01	▲0.01	0.03	0.00	0.00	0.00			
前年同月比(%)	▲0.8	▲0.8	▲0.6	▲0.9	▲1.2	1.0	▲1.6	0.8	▲3.8	▲1.4	▲1.6	0.3	0.0	0.1	0.2			
寄与度	—	▲0.79	▲0.47	▲0.59	▲0.32	0.04	▲0.33	0.08	▲0.13	▲0.05	▲0.07	0.04	0.00	0.01	0.01			

資料：県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ 寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

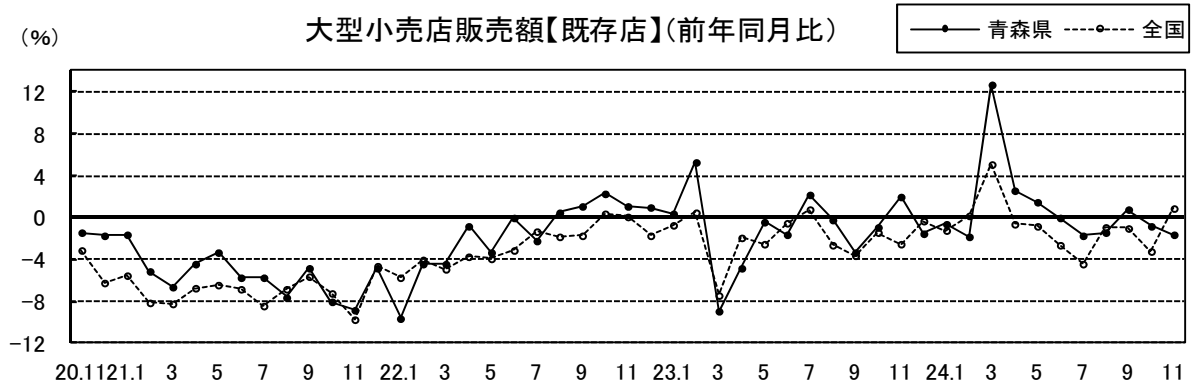
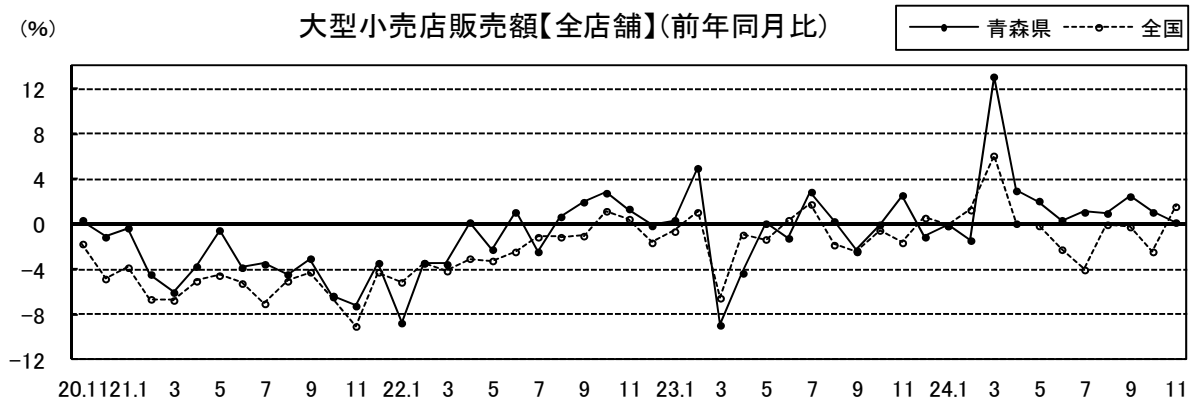
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

(2-4) 個人消費

平成24年11月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが144億1,300万円で前年同月比0.2%増となり、9ヶ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは1.6%減となり、2ヶ月連続で前年同月を下回った。飲食料品、衣料品などが低調であったことによる。

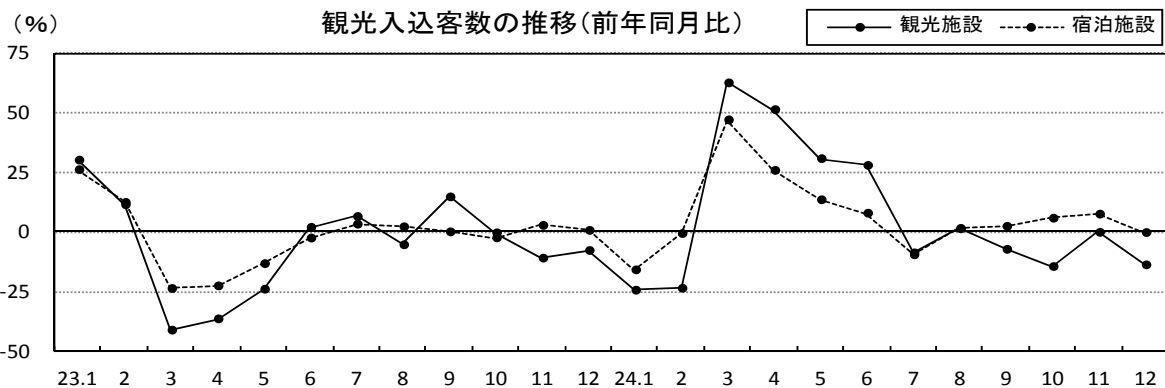
平成24年12月の観光入込客数は、主な観光施設が前年同月比13.6%減となり、2ヶ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は0.1%減となり、5ヶ月ぶりに前年同月を下回った。観光施設は青森市、八戸市、むつ市などの施設で減少し、宿泊施設は青森市、弘前市で減少したことによる。

平成24年12月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,403台で、前年同月比0.7%増となり、2ヶ月連続で前年同月を上回った。小型車が増加したことによる。

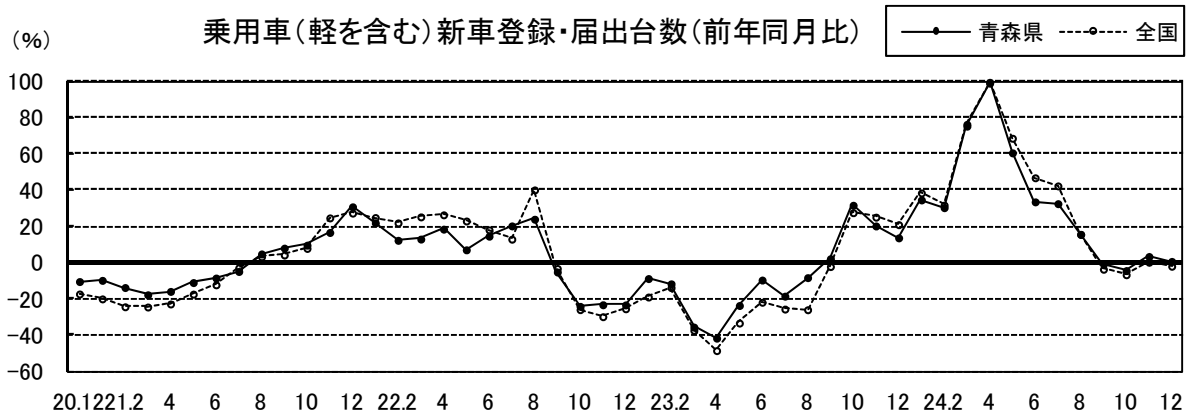


資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



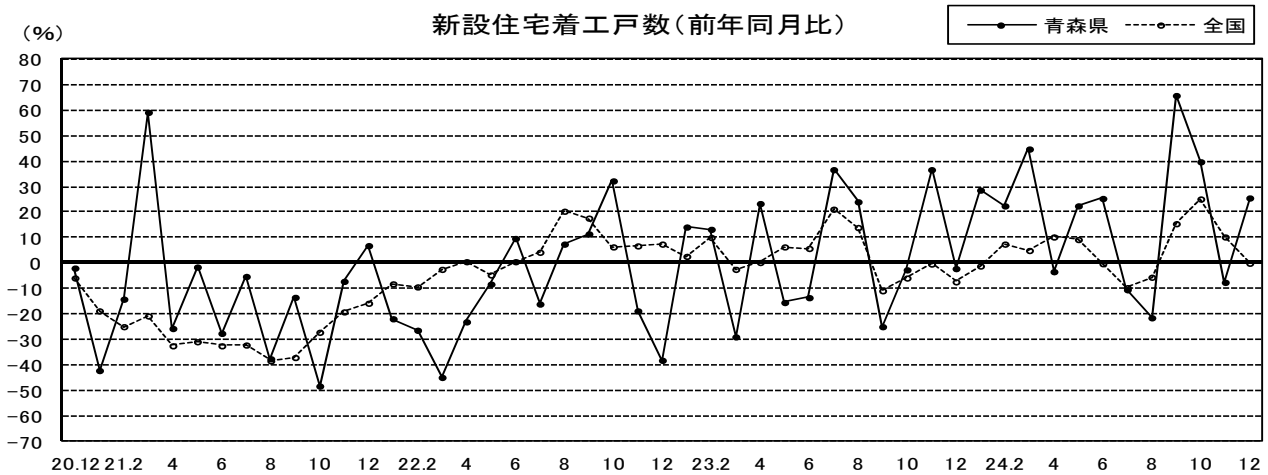
資料：県観光企画課「月例観光統計」 ※観光施設36施設（～23.12は34施設対比）、
宿泊施設52施設（～23.12は56施設対比）



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

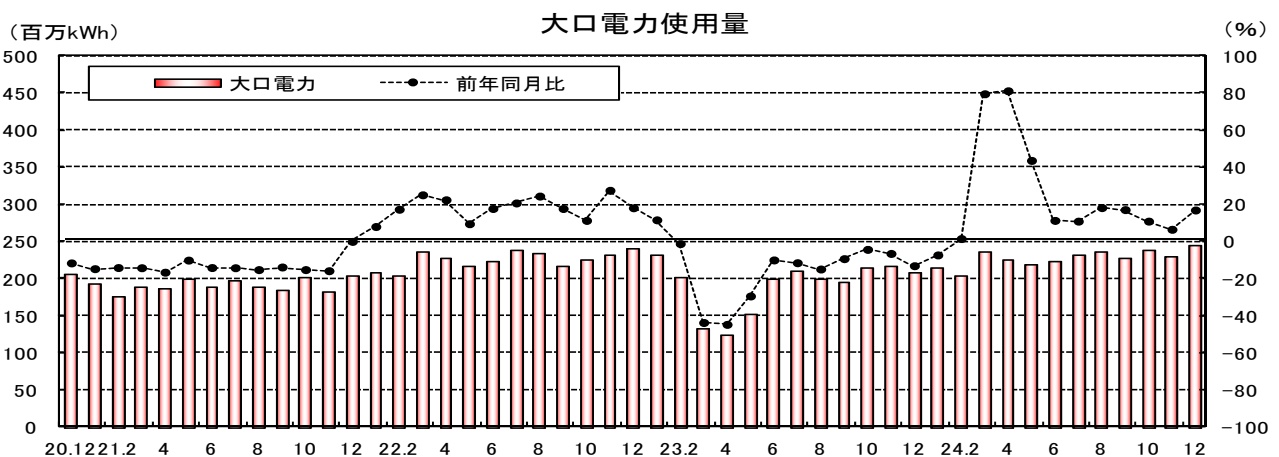
平成24年12月の新設住宅着工戸数は461戸で、前年同月比25.6%増となり2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。持家、貸家、給与住宅、分譲住宅のすべてが増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-6) 電力使用量

平成24年12月の大口電力使用量は2億4469万kWhで、前年同月比16.7%増（一昨年同月比1.2%増）となり、11ヶ月連続で前年同月を上回った。製造業を中心に増加したことによる。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

(3) 青森県景気動向指数

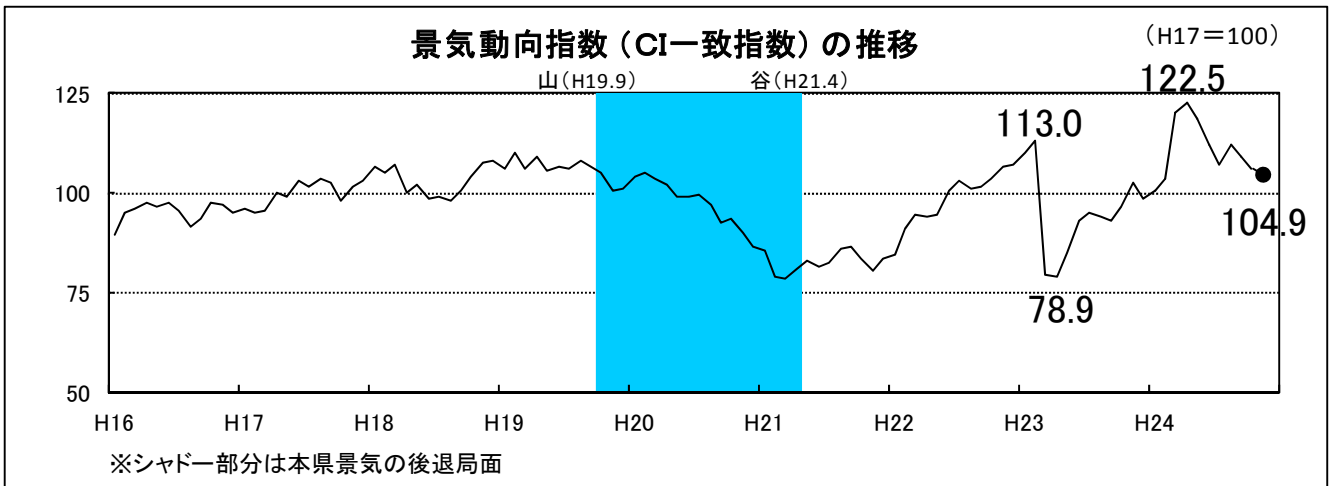
平成24年11月の青森県景気動向指数(CI)は、先行指数 104.3、一致指数 104.9、遅行指数 91.4 となった。

先行指数は、前月を 2.2 ポイント下回り、4か月連続で下降した。

一致指数は、前月を 1.3 ポイント下回り、3か月連続で下降した。

遅行指数は、前月を 2.7 ポイント下回り、4か月連続で下降した。

11月の一致指数は、雇用・生産関連等の指標がマイナスになったことから、下降した。



●個別系列の動き (各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています)

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
乗用車新車登録届出台数	1.99	7か月ぶり	新設住宅着工床面積	-2.23	2か月連続
企業倒産件数	1.41	5か月連続	生産財生産指数	-1.70	2か月ぶり
中小企業景況DI	0.80	2か月ぶり	所定外労働時間指数 (全産業)	-1.44	2か月ぶり
			新規求人倍率 (全数)	-0.74	3か月連続
			建築着工床面積	-0.20	2か月連続
一致系列					
鉱工業生産指数	1.11	3か月ぶり	有効求人倍率 (全数)	-1.56	2か月連続
東北自動車道IC利用台数	0.42	2か月ぶり	大口電力使用量	-0.60	2か月連続
			輸入通関実績 (八戸港)	-0.35	6か月連続
			大型小売店販売額 (既存店)	-0.32	2か月連続
遅行系列					
青森市消費者物価指数 (総合)	0.47	4か月連続	常用雇用指数 (全産業)	-1.24	2か月ぶり
			家計消費支出 (勤労者世帯: 実質)	-0.68	2か月連続
			りんご消費地市場価格	-0.45	4か月連続
			公共工事請負金額	-0.38	3か月連続
			現金給与総額 (全産業)	-0.31	2か月ぶり

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

※11月分の指数は、未発表の系列があるため、現時点で得られる値のみで求めています。

(参考) 青森県景気動向指数 (DI)		
先行指数	25.0%	(2か月連続で50%を下回った)
一致指数	16.7%	(4か月連続で50%を下回った)
遅行指数	50.0%	(3か月ぶりに50%を上回った後50%となった)

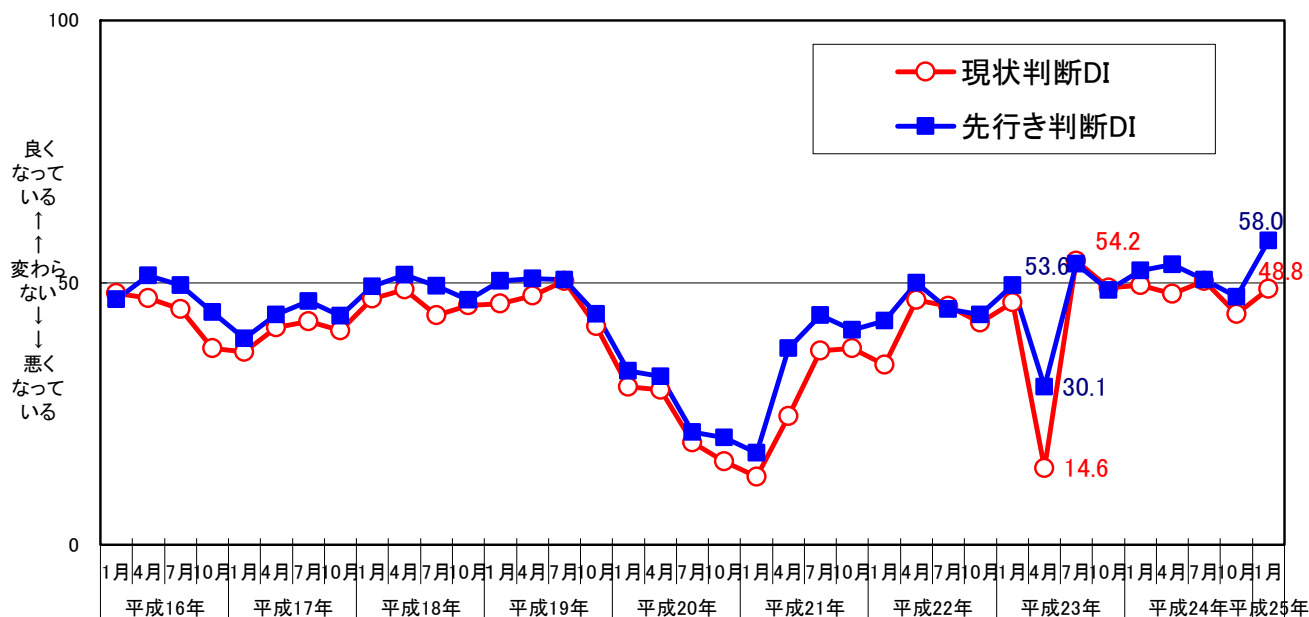
(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成25年1月期)

3か月前と比べた景気の現状判断DIは、前期調査と比べると4.8ポイント増加の48.8となり、景気の横ばいを示す50を2期連続で下回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは、前期調査と比べると10.7ポイント増加の58.0となり、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに上回った。

(調査期間 平成25年1月4日～1月17日 回答率 100%)

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



● 3か月前と比べた景気の現状判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント増加、「やや良くなっている」が6.0ポイント増加、「変わらない」が5.0ポイント増加、「やや悪くなっている」が13.0ポイント減少、「悪くなっている」が1.0ポイント増加したことにより、全体では4.8ポイント増加の48.8となり、景気の横ばいを示す50を2期連続で下回った。</p> <p>判断理由を見ると、新店舗開店に伴って商店街を訪れる人が増えた、消費税増税を前に売上が増えたという声があった。一方で、お歳暮用の商品の売上が伸びなかった、客数、客単価が落ち込んでいる、景気低迷で需要が伸びない中で価格も下落しているという声があった。</p> <p>前期調査と比べて、東青、津軽、県南地区ではポイントが増加し下北地区では減少した。県南地区では景気の横ばいを示す50を上回った。</p>
--------	---

● 3か月後の景気の先行き判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「やや良くなる」が22.0ポイント増加、「変わらない」が1.0ポイント減少、「やや悪くなる」が21.0ポイント減少したことにより、全体では10.7ポイント増加の58.0となり、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに上回った。</p> <p>判断理由を見ると、円安と株価の上昇を背景とした景気上昇を期待する声や、景気対策の効果も期待する声があった。一方で、地方では厳しい状況が続くという声や、増税や収入の低下による生活防衛意識の高まりを懸念する声もあった。</p> <p>前期調査と比べて、東青、津軽、県南、下北地区全てでポイントが増加するとともに、景気の横ばいを示す50を上回った。</p>
--------	--

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- 消費税増税の前倒しによる売上増のため。(住宅建設販売・東青)
- 年末年始の人出も前年と比較して多く、購買意欲も増してきているように感じる。(百貨店・津軽)
- 商店街に新規店舗がオープンし、百貨店にも新規テナントが入った相乗効果により、来街者の増加につながっている。(商店街・津軽)
- 数年ぶりに社員旅行を実施・再開したケースも出てきた。(旅行代理店・県南)
- 個人消費に上向き感があるが、良くなっているとまでは言えない。(都市型ホテル・東青)
- お歳暮ギフト、年末の購買動向、客単価等から判断して、お客様のサイフのひもは固い。(卸売業・県南)
- 2012年の円高や国際問題、国内経済の行き詰まりに対し、明確な改善要因が見られない。輸出も下げ止まったままである。地方であっても製造業は今や世の中の動きと連動している。(電気機械製造・県南)
- △ 秋の紅葉で観光客が多かったが、冬期はデータの的に見ても下回ることが多いので。(観光名所等・東青)
- △ 求人の数等に大きな変化は見られないが、条件が正→契、月給→時給と安定していないものが増え、時間当たりの賃金も若干ではあるが減っている。(人材派遣・東青)
- △ 年末年始の売上状況やお客様の来店状況を見ると、12月はお客様の動きが鈍く、また、年始においても期待ほどの動きになっていない。(百貨店・県南)
- △ 景気低迷で需要が伸びない中、価格の下落など厳しさが増した。(紙・パルプ製造・県南)
- △ お歳暮の買上点数が減っているのが目立ちます。家計を切り詰めていると思われれます。(一般小売店・下北)
- × 年末商戦、初売りの苦戦、特に食料品の単価ダウンでの売上縮小傾向続く。(百貨店・東青)
- × 3ヶ月前と比べて受注は半減している。(電気機械製造・津軽)

● 3か月後の景気の先行き判断理由

- ◎ 円安、中国との関係改善、アメリカの景気回復によって、自動車をはじめとする国内基幹産業が活性化すれば季節従業員の採用など本県へ好影響が期待できる。(新聞社求人広告・東青)
- 為替の円安と日経株価の上昇と雰囲気が良い。(パチンコ・東青)
- 夏までは政府の景気対策で良くなってくると考えられる。(経営コンサルタント・津軽)
- 新生活の需要があるため(3月)。(家電量販店・県南)
- 円安・株高などを背景に、景気が上向き糸口が見えた気がする。(紙・パルプ製造・県南)
- 株価も少しずつ上がり始め、築地市場で大間マグロが過去最高額を出すなど、閉塞感から脱却しつつあるのではないかと。(ガソリンスタンド・下北)
- 最も需要のない2月を控えて、需要期である3月でいかに挽回するかによりますが、ならせばさほど変化はないのではないかと。(商店街・東青)
- 冬期間という季節要因もあり横ばい状態ではないかと。(都市型ホテル・東青)
- 景気対策により回復していくと考えられるが、短期では効果はあらわれないと考える。特に地方ではなかなか厳しい状況が続くであろう。(百貨店・津軽)
- 新たな地元産業の活性化が殆どなく、雇用の回復が見込めないため、景気回復は厳しいと思われる。(スーパー・県南)
- △ 所得税の増税等による公的負担増による可処分所得の減少が心配されます。(コンビニ・津軽)
- × 良くなる材料は何もなく、増税や収入の低下による生活防衛意識がますます強くなる。(百貨店・東青)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」